

2022 年度 第 2 回学校評価のまとめ

校長 平井 正朗

I 集計結果のまとめ

1 月に実施した第 2 回学校評価の結果を公表します。回答数は、在籍 331 名中、生徒 291 名 (87.9%)、保護者 243 名 (73.4%)、教職員 35 名 (87.5%) でした。

以下の数値 (%) は、設問に対して「わからない・無回答」を除いて「(やや) あてはまる (=達成率)」と答えた割合を表します。2022 年度の全体 (第 1 回、第 2 回) の平均達成率は 82.8% であり、内訳は生徒 75.9%、保護者 77.1%、教職員 92.2% でした。

なお、学習指導要領の改訂、本校の事業計画等を参考に、質問事項については加筆・修正を加えています。(参考資料②参照)

高評価：90%以上、要精査：60～69%、要改善：60%未満

■ 生徒

90%以上 → 1 項目、80～89% → 5 項目、70～79% → 18 項目

60～69% → 5 項目、60%未満 → 1 項目

■ 高評価：進路指導 (進路満足度) 94.6%

■ 要精査：私学の独自性 (建学の精神) 68.6%

授業 (きめ細やかな指導) 65.3% 授業 (探究活動) 65.7%

その他 (生徒会活動) 69.4% その他 (読書教育) 60.0%

■ 要改善：カウンセリング体制 49.2%

■ 保護者

90%以上 → 1 項目、80～89% → 13 項目、70～79% → 13 項目

60～69% → 4 項目、60%未満 → 0 項目

■ 高評価：進路指導 (進路満足度) 92.9%

■ 要精査：授業 (きめ細やかな指導) 68.7% SDGs と社会貢献 64.1%

その他 (クラブ活動) 68.2% その他 (読書教育) 62.1%

■ 要改善：なし

■ 教職員

90%以上 → 23 項目、80～89% → 13 項目、70～79% → 3 項目

60～69% → 1 項目、60%未満 → 0 項目

■ 要精査：地域交流 61.8%

■ 要改善：なし

II 成果

・2022 年度の事業計画に示した「進路満足度 100%」の達成状況について、生徒 (94.6%)
及び保護者 (92.9%) の評価が 90%以上となりました。

・2021 年度末の第 2 回目と比較すると、保護者・教職員からの評価で「要改善」は皆無
となりました。

・保護者のアンケート回答率が 2021 年度末の第 2 回目 (53.1%)、2022 年度の第 1 回目
(58.7%) とともに 50%台でしたが、今回は 70%以上となりました。

III. 課題と対策

・(全体を通して) 生徒・保護者と教職員の評価に大きなギャップがあります。生徒主体
の教育実践に向けて、モチベーションの維持、teach から facilitate する学習指導・生徒指
導のあり方を強化します。同時に、全教職員が現実を再認識した上で、ワークショップ等
を盛り込み、OJT (On the Job Training) を通じて資質向上をはかります。

・(要改善項目) 2022 年度より個別最適化学習が可能な「KOKOROOM (学習支援室)」
とカウンセリング・ルームを新設しました。常時、来室した生徒の改善率は 92.9%であ
り、多大な貢献をしたことは疑う余地がありません。生徒(49.2%)と保護者の評価(85.2%)
に格差があることから、生徒への認知度を向上させていきます。

・(要精査項目) 授業における「きめ細やかな指導」(生徒 65.3%、保護者 68.7%、教職
員 87.9%) については、個別最適化された学びを定着させるために、リフレクションア
ワーを通じて学年と教科、担任と保護者が連携を密にして学習内容の定着をはかります。
また、教員は素材研究、教材研究、指導法研究を進め、公開授業でスキルを高め、授業満
足度アンケートで授業改善を行います。

・(要精査項目) 授業における「探究活動」(生徒 65.7%、保護者 70.7%、教職員 78.8%)
と「SDGs と社会貢献」(生徒 73.3%、保護者 64.1%、教職員 88.2%) については、全校
体制での取り組みに向けて、「探究教育推進委員会」を新設します。学年及び人文系部門、
理数系部門、芸術・体育系部門と教科横断的取り組みを行うのと同時に、生徒の「思考－
判断－表現」する場面を増やします。

・(要精査項目) 「読書教育」(生徒 60.0%、保護者 62.1%、教職員 94.1%) については、
図書館と国語科が中心となって朝読の質を見直し、「読む」習慣を再構築します。また、
ビブリオバトル、関西国際大学の図書館ツアー、電子図書館、読書講演会等を実施した後
の生徒の具体的な活動を学校行事に位置づけます。

・（要精査項目）私学の独自性における「建学の精神」（生徒 68.6%、保護者 71.9%、教職員 96.2%）については学年の年間小テーマの中に位置づけます。「生徒会活動」（生徒 69.4%、保護者－、教職員 88.2%）については、多くの生徒が参加しやすいイベントを増やすのと同時に、日々の活動をさらに広報していきます。「地域交流」（教職員 61.8%）については保護者会（育友会）、同窓会（友松会）と連携して地域の方々が参加できるイベント等を開催することによって、交流を深めていきます。

【参考資料①】 学年の大テーマと小テーマ

■ 中学（１年生～３年生）

中学の全体目標と学年目標		
大テーマ [全体]		
1 学期	「お蔭様で」という感謝の気持ちを忘れず、常に自分を律し、平凡なことをやり続ける姿勢を養う。	
2 学期	興味・関心の対象を見つけ、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を探究する姿勢を養うと同時に、自らの能力を最大限に伸ばす努力をする。	
3 学期	リアルな社会的問題の解決に向けて、必要とされる学びを深めながら本質を捉え、既成概念に捉われない着眼点を伸ばし、個別最適学習（アダプティブ・ラーニング）の基盤をつくる。	
小テーマ [学年]		
中 1	1 学期	生活リズムを整えることはもちろん、「すべきことはその日のうちに！」の習慣化。→ 物事に対してやり遂げる中学校生活の確立化。 「あ・じ・み・そ」を習慣化させ、素直かつ能動的に取り組む姿勢の育成。
	2 学期	個々の個性を認め合いながら、何事にも能動的に全力で取り組む集団の育成。初めての行事への全力挑戦。（学園祭等）
	3 学期	年間の振り返りと次年度の PDCA
中 2	1 学期	物事や他者に対しての思考力を養い、何事にも思いやりをもって判断し表現する能力の育成。先輩としての自覚と立志の意識向上。
	2 学期	自立心の育成。 習得した知識や技能を活かして、主体的に取り組む態度・姿勢の育成。
	3 学期	年間の振り返りと次年度の PDCA
中 3	1 学期	習得した知識や技能を活かして、主体的に取り組む行動・考動の確立化。最上級生としての自覚とリーダーシップの育成。
	2 学期	自分の将来を見据えて、高等学校のコース選択とその実現のための PDCA。最上級生としてのリーダーシップを発揮しての中学運営。
	3 学期	中学 3 ヶ年の振り返りと高 1 での PDCA

■ 高校

高校の全体目標と学年目標		
大テーマ [全体]		
1 学期	個別最適学習（アダプティブ・ラーニング）への習熟を通じて、得意分野を最大限に伸ばし、苦手分野を積み残さない取り組みを実践する。	
2 学期	“なりたい自分”になるための目標を明確にしつつ、学びのスタイルを確立し、思考力・判断力・表現力を伸ばす。同時に、物事の本質を見極め、正解は1つでないことに気づき、最適解を導くことによって豊かな人生を切り拓くたくましさを身につける。	
3 学期	自分の可能性を認識するとともに、他者を尊重し、協働しながら社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となると同時に、各自が夢の実現に向けて、高い志を持ち、教育ミッション、建学の精神を具現化する。	
小テーマ [学年]		
高 1	1 学期	① 規則正しい生活習慣を確立する ② 「あ・じ・み・そ」を徹底する ③ 学習計画における PDCA サイクルを意識する ④ 身近な問題に目を向け、その解決方法を模索する
	2 学期	① 生活習慣・学習習慣などを見直し、その質的向上を目指す ② 計画的な学習と明確な目標設定に基づく継続的な学習習慣を確立する ③ 学園祭を通じて、協働の意識を高める ④ 諸問題に対する探究を通して最適解を見い出す努力をする
	3 学期	① なりたい自分と現状の自分の差を把握し、自己実現に向けた具体的な目標を策定する ② 年間の振り返りと次年度に向けての PDCA により目標を設定する
小テーマ [学年]		
高 2	1 学期	① 生活習慣・学習習慣の見直し・習慣化を図ることで、進路実現に向けて自らを方向づけていく。 ② EdTech 教材を活用し、自主的・自発的な学習スタイルを確立しながら、自己調整学習を確立していく。 ③ 校則の遵守・集団の中で責任ある言動を心がけさせながら、自身の役割を自覚し他者と協働できる生徒を育てる。
	2 学期	① 目標設定や、自身の取り組みに対してPDCAサイクルによる振り返りを行いながら、進路実現に向けて学習面・精神面を鍛錬していく。 ② 他者からの学びを謙虚に受け入れ、客観的に物事を判断しながら、進路実現に向けての軌道修正を行う。 ③ 校則の遵守・集団の中で責任ある言動を心がけさせながら、自身の役割を自覚し他者と協働できる生徒を育てる。
	3 学期	① 1年後の自分を想像し、そのためには「今何をすべきか」「どのように過ごすべきか」「目標までの距離はどれくらいあるのか」を客

小テーマ [学年]		
		観的に分析し、着実に歩みを進めていく。 ② 一人ひとりが“LEADER”としての資質を身に付け、目標達成に向けて「最後まで諦めない・挑戦し続ける」ことのできる集団となる。 ③ 校則の遵守・集団の中で責任ある言動を心がけさせながら、自身の役割を自覚し他者と協働できる生徒を育てる。
高 3	1 学期	① 探究活動を通じて、各自の受験に対する課題を見つけさせ。計画を立てさせる。興味のある分野について広く調べさせることで視野を広げさせ、受験に対する意識を高める。 ② ゴールから逆算して、余裕を持って計画に取り組めるようにする。今しなければならないことを着実にこなせるようにする。受験の不安を乗り越えさせるために学年担当者は親身な指導を行う。
	2 学期	① 最後まで第 1 志望をあきらめずに取り組ませる。リフレクションシート、模試の振り返りに PDCA サイクルを活用して努力を継続できるようにする。 ② 進路が決まった生徒も、目標を持たせて入学後の学力の基礎となる学習に取り組ませる。
	3 学期	① 学年の最後まで前向きな態度で学校生活全般に取り組めるように学年で指導する。進路指導においては、面談を通じて生徒・保護者・学年担当者が一体となって取り組んでいく。 ② 生徒全員の進路満足度が 100%になることを目指す。

【参考資料②】2022 年 第 2 回学校評価 質問内容

	観点	項目	設問
学 校 経 営	私学の独自性	建学の精神	1 建学の精神と教育ミッションに基づいた、教育目標と方針が、教職員・生徒・保護者によく浸透している。
		愛校心	2 在校生・卒業生は「山手ファミリー」の一員として誇りと自覚を持っている。
	教育課程	学習指導要領	3 教育課程は学習指導要領に沿って作成されている。
		教育計画	4 年間を通じた教育計画（シラバス）に従って、各教科・科目の授業が展開されている。
	開かれた学校	教育活動の公開	5 教育活動について、ホームページ・各種通信・クラッシー・ロイロノート・ミマモルメ等で、可能な範囲の情報が公開されている。
		財務関係	6 財務諸表等が公開されている。
		授業公開	7 保護者などに対して、授業や行事が公開されている。
		地域交流	8 地域の清掃やイベントへの参加活動を通して、地域住民との交流ができています。
		外部講師の活用	9 外部講師による講演や企業とのコラボ授業など、生徒が一般社会で活躍する人に触れて刺激を得る機会が作られている。
	連携	教員間連携	10 教員間の相互理解と信頼関係のもとに、教育活動が展開されている。
			11 職員会議をはじめ、学年・分掌・教科の会議は、課題検討と有用な情報交換の場として機能している。
		教職員連携	12 教員と事務職員の相互理解と信頼関係のもとで、教育活動が展開されている。
		保護者・卒業生連携	13 育友会・同窓会の活動が盛んで、本校の教育方針に対する保護者や卒業生の理解と協力が進んでいる。
	教員研修	校内研修	14 校内研修会や効果的なOJT（On-the-Job Training）が実施され、教職員の資質向上につながっている。
		資質向上	15 研究授業、相互授業参観、模試・考査分析会、外部研修会への参加等によって、教員の資質向上が図られている。
	危機管理	役割分担	16 事故・災害等、非常事態に対処する際の役割分担が明確にされている。
		講習・訓練	17 健康・安全についての講習、防災訓練等を通じて、生徒・教職員・保護者の防災・安全意識が高められている。
		パンデミック対策	18 日常の感染予防対策を徹底しながら教育活動が行われ、必要に応じて遠隔による授業・行事が実施されている。
		個人情報	19 個人情報の管理について、十分な配慮がなされている。
	設備施設	施設管理	20 施設管理について、日常的に点検・補修が行われ、常に適正に管理されている。
教 育 活 動	生徒指導	学校生活	21 生徒は学校生活を楽しんでいる。
		基本的生活習慣	22 時間厳守・身だしなみ・挨拶・校則の遵守・整理整頓・清掃など、生徒の基本的生活習慣の確立のための指導が行われている。
		面談	23 面談を通して個々の生徒に寄り添い、生徒と教員の信頼関係のもとに課題が共有され、問題があれば迅速に報告されている。
		組織的対応	24 問題行動の防止に向け早期指導を行うとともに、生徒指導に組織的に対応する体制がある。
	進路指導	意識の向上	25 生徒の適性に応じて個々の興味・関心を引き出し、個性と学年に応じた進路指導・キャリア教育が実施されている。
		情報の活用	26 生徒・保護者への説明会、外部講師による講演、大学との交流など、さまざまな進路行事を通して情報提供が行われている。
		個別指導	27 生徒の学習到達度を正確に把握し、模試・考査などの客観分析とPDCAを行わせる進路指導が行われている。
	授業	質の向上	28 教員は、各教科のコース別到達目標に即して、わかりやすい授業の工夫と改善を心がけている。
		きめ細やかな指導	29 生徒は学習への取り組みや到達度を振り返り、適切なアドバイスを得ている。また宿題・提出物等の管理も行き届いている。
		個別最適化	30 各自の目標や到達度に応じて自主的に適切な課題を選んで取り組むという、個別最適化学習の体制が整っている。
		探究活動	31 探究活動が生徒の興味関心を喚起し、主体的対話的な深い学びが成立している。
	グローバル教育		32 グローバル化の時代に対応した本校ならではの教育活動が実施されている。
	人権教育		33 生徒の人格が尊重され、平和を希求し人権侵害や差別に立ち向かう態度を育む実践が行われている。
	SDGsと社会貢献		34 SDGsを念頭におき、社会貢献や環境保全活動とともに、日々のごみ分別・資源回収などが実践されている。
	情報教育	情報モラル	35 情報の発信に伴う責任など、情報モラル面での教育が十分に行われている。
	その他	カウンセリング体制	36 不登校の生徒や心の問題を抱える生徒に、カウンセラーの支援体制がある。
		クラブ活動	37 クラブ活動の役割を重視し、より多くの生徒が参加できるような体制が整えられている。
		生徒会活動	38 生徒会活動が生徒主体で活発に行われ、社会に積極的に参画する意欲が育まれている。
		読書教育	39 図書館が充実し、朝の読書・読書講演会・ビブリオバトルなど、読書を促すための行事やしくみがある。
		学校行事	40 それぞれの学校行事が年間指導計画の中に位置づけられ、生徒が積極的に参加できるように工夫されている。
		進路指導	41 卒業後の進路に満足している。